Title	辻本久夫他 8 人著：『親と子がみた「在日韓国・朝鮮人白書」：在日韓国・朝鮮人と日本人の三つの意識調査』
Author	全, 玟楽
Citation	教育学論集. 20 巻, p.52-52.
Issue Date	1994-08
ISSN	0288-4909
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院文学研究科教育学教室
Description	

Placed on: 大阪市立大学学術機関リポジトリ

Placed on: Osaka City University Repository

辻本久夫他８人著『親と子がみた「在日韓国・朝鮮人白書」
―在日韓国・朝鮮人と日本人の三つの意識調査―』

全　玟　楽（大学院研究生）

本書は、在日韓国・朝鮮人の民族意識が薄れつつある中で、在日のあり方と未来を模索する手がかりをつかむために、主に、神戸、明石、阪神間に在住する在日の小・中・高校生とその保護者、日本の公立学校に通う児童生徒を対象に行った三つのアンケート調査の結果をまとめたものである。

内容は、「調査報告Ⅰ　兵庫県の在日韓国・朝鮮人児童生徒のアンケート調査」、「調査報告Ⅱ　日本の学校に子どもを通わせている在日韓国・朝鮮人保護者の教育観に関するアンケート調査」、「調査報告Ⅲ　国際環境における児童生徒の意識調査」、調査結果を踏まえての、執筆者全員による「座談会」と構成されている。データの分析にあたっては、現職の学校現場の教員、大学の研究者、在日の関係者ら計９人による共同執筆ということもあって、それぞれの立場からの多方面にわたる分析が試みられている。

調査の状況は、在日韓国・朝鮮人児童生徒を対象に郵送による調査数 2,861の中、回収された数が8/6%（246人）、保護者を対象とする調査数 1,726の中回数率 9.3%のように、１割を割る低い回収率で、普段から在日としての存在意識と民族意識に関心を寄せている児童生徒と親たちが回答にまわったとも考えられる。よって結果の全体像をつかむにはやや信頼度が落ちる面があることも否めない。

しかしこの方面の大がかりな調査（子ども、親両者を対象にした）は前例がなく、結果においても興味深いデーターも少なくない。また、自由記載に見られる子どもたちや親たちの率直な意見は生々しく、在日の抱えている悩みや葛藤、勇気などはしみじみと胸にこたえるものがある。偏見や差別がもたらす葛藤や自分との戦いのなかでも民族のアイデンティティを求めて、また韓国・朝鮮人としての誇りをもって生きていこうとする勇気ある姿勢も多く見られる。

「〈何人〉をやめて〈地球人〉にしよう」と主張する中学一年生の意見からは、口では「内なる国際化」を唱えながらも在日韓国・朝鮮人に対する偏見や差別がなくならない日本社会に対する力強い抵抗感さえ感じさせてくれる。また、「調査報告Ⅲ」の自由記載からは、在日外国人に対して好感を示す意見も少なくないが、差別や偏見を含む排他的意見や、暴力、イジメなどの記述は問題の深刻性をそのまま代弁しているといえよう。いずれにしても、データーの結果を通して、そして自由記載から見られる生々しい声や意見を参考にしてみんなが問題解決に少しでも努力していただきたいことを期待して止まない。

「すごくたのしいアンケートだ……。」、「こういうアンケートをしなくてもいい日がくればいいが」などの自由記載からもわかるように、アンケート調査そのものがもつ啓蒙的役割と子どもたちに与えるインパクトと十分果たしていると思う。が、調査をして報告する以上には、せっかくのデーターを生かして、懸案の諸問題が解決していくための提言なり主張を付け加えて締めくくってほしかった。

（明石書店、1994年、421頁、5,500円）